

## 目次

はじめに

8

## 第一章 変貌する高校野球

——データ化と制度化がもたらしたもの

10

高校野球におけるデータは選手の「カルテ」

データの普及による選手育成への恩恵とは？

「しんぎ」マネジメントが必要ない時代

データの普及・マニュアル化によるアドリブ力の低下

データを用いた戦術だけではジャイアント・キリングは起こらない

依然として高い高校野球におけるバントの価値

スマールでもビッグでもない「トータル・ベースボール」

甲子園で勝つためには春季大会と明治神宮大会が重要？

「球数制限」が変えた高校野球の戦略と予期せぬ弊害

現代の高校野球における「投げなさすぎ」の問題

センバツは「強いチーム」でも甲子園に出られない？

現代の高校野球は国際大会の感動に通ずる

## 第二章 ゼロ年代の強豪校の戦略・戦術の変化

(2000～2009年)

打撃記録を塗り替え複数枚の投手陣が起こした革命——2000年の智弁和歌山

1試合平均8点以上の打撃力と二枚看板——2001年の日大三

本塁打ゼロでも「木内マジック」で全国制覇——2003年の常総学院

「勝負強さ」が呼んだ春夏連覇の挑戦——2004年の済美

歴史を変える強力打線——2004年の駒大苫小牧

二人のエース格の力で打撃から守備のチームへ——2005年の駒大苫小牧

斎藤佑樹 vs. 田中将大で見えた「圧倒力」

—— 2006年の早稲田実業 vs. 駒大苫小牧

常勝軍団への道を作った「強力打線」—— 2008年の大阪桐蔭

「打高」の時代が複数投手制を生んだ？

## 第三章 強豪校の戦略・戦術の変化

(2010～2022年)

強力打線とエースが前年の課題をデータから改善し春夏連覇

—— 2010年の興南

10年前に劣らない打撃力と世代トップのエースで夏制覇—— 2011年の日大三

藤浪・森を中心としたチームビルディングで春夏連覇—— 2012年の大阪桐蔭

高校野球100年、プロ級の投手陣と強力打線で栄冠に

—— 2015年の東海大相模

投打の運用力で春2連覇と春夏連覇を達成した「最強世代」

—— 2018年の大阪桐蔭

## 第四章

### 「真の勝利至上主義」がもたらすもの

盤石な投手陣と抜群の運用力で「白河の関」越え——2022年の仙台育英  
先駆的なマネジメント術で三冠を達成——2022年の大阪桐蔭  
覇権を握るためのトータル・ベースボール

「真の勝利至上主義」とはなにか？

高校野球で「勝って当たり前」のプレッシャーを撥ね除ける大阪桐蔭の凄さ

高校野球で勝つための最適解を持った高校 vs. プロ入り後怪物を生み出す高校

21世紀型のチーム——「勝利」と「個の育成」を両立した1987年のPL学園

近畿地方にはなぜ強豪校が多いのか——都市部の高校野球

高校野球も投手野手問わずユーティリティ性を戦略の一つに

トレンドは細かい継投策とエースを後ろに回す継投

投手の高速化と低反発バットで予測される「投高打低」

試合巧者の馬淵・木内采配は現代でも通用する

「甲子園」という舞台をいかに味方につけるか——佐賀北、吉田輝星、奥川恭伸  
高校野球における「勝ち」と「価値」

おわりに

238

巻末資料

240

註

245

参考文献

252

## はじめに

投げ込み、走り込みを中心とした練習設計、一人のエースの完投による投手一強型のチームビルディング、選手の個を無視した小技中心の「スマール・ベースボール」……。

これらは高校野球において強豪校の戦い方として正当化されながらも、多くの批判を受け、いつしか「勝利至上主義」というもの自体が敵視されるようになり、最近では旧来のトーナメント方式とは異なる高校野球リーグの構想まで始まっている。

しかしながら、現代の高校野球において勝利至上主義はすでにアップデートされている。データを重視した効率的なトレーニングで選手を育て、ベンチを含めた選手全員で戦い、選手個々の能力と思考を活かした戦略を採用しているチームが結果を残している。そしてそれは、高校野球のみならず、プロ野球をはじめとした野球界全体の底上げにもつながっていると筆者は考える。

本書では現代高校野球の戦略とそこに至るまでの変遷、そしてそうした戦略のもと活躍した

選手たちのプロでの成績を分析することによって、現代野球における「勝利至上主義」の在り方を提示する。

優勝した高校の強さはどこから来ているのか？ 勝てるチームはどのように作られるのか？ 勝利至上主義とはなんなのか？ など、尽きない疑問への「答え」にまではたどり着かないかもしれないが、「考えるヒント」を提供できれば幸いだ。

執筆する上で心掛けたのは、これまでにない「21世紀における高校野球の戦略・戦術バイブル」にすることだ。自分自身が多く試合やプレーを見て、いま持っているすべての知識と感覚をつぎ込んだ。多くの野球ファンの方楽しんで読んでもらえたら嬉しい。今後の高校野球観戦のお供としていただきたい。

なお本文にある情報や選手の成績、所属先などは2023年4月10日現在のものであり、文中では選抜高等学校野球大会は「センバツ」、全国高等学校野球選手権大会は「夏の甲子園」と表記する。